

(別記)

大口町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域では水稲と麦・大豆の生産が盛んであり、一部の地域においては飼料用米、備蓄米、景観作物や露地野菜が作付されている。

しかしながら、交通の便が良い地域ということもあり、近年大規模開発により農地の減少が進んでいる。また農家の高齢化が進んでおり、後継者不足の問題も懸念される。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作りの徹底により米の主産地としての地位を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需給減が見込まれる中、飼料用米を麦・大豆に次ぐ転作作物に位置付ける。飼料用米の生産拡大に当たっては、コンタミ防止のために主に主食用品種での対応とし、32年度には38haの生産を目指す。

イ 備蓄米

主食用米と同じ機械、施設で取り組める転作作物として、平成25年度から取り組みをしている。面積は現状維持とする。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、GAP作成による生産性及び品質向上の取り組みを推進していく。実需者の要望に即し生産していく中で、32年度における麦の作付予定面積は65haとする。

大豆については、排水対策、難防除雑草対策の技術普及を図り、32年度における大豆の作付予定面積は12.0haとする。

(4) 高収益作物（野菜等）

野菜、花き（花木、種苗を含む）、果樹に対し、産地交付金を活用し生産性向上及び栽培面積の維持拡大を図る。32年度における作付予定面積は13.2haとする。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	170	170	170
飼料用米	36	37	38
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS 用稲			
加工用米			
備蓄米	3	3	3
麦	65	65	65
大豆	11	11.5	12
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物	12.8	15	17.2
野菜	8	10	12
花き	0.4	0.5	0.6
果樹	0.4	0.5	0.6
景観形成	4	4	4

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	大麦（基幹作・二毛作）	大麦の収量向上	10a 当たりの収量	（29年度） 454kg/10a	（32年度） 477kg/10a
2	大豆（基幹作・二毛作）	大豆の品質向上	特定加工用の割合	（29年度） 33%	（32年度） 20%
3	飼料用米（基幹作）	飼料用米栽培の省力化	肥効調節型肥料の施用面積	（29年度） 36ha	（32年度） 38ha
4	野菜、花き、果樹 （基幹作・二毛作）	高収益作物の生産拡大	作付面積	（29年度）	（32年度）
			（野菜）	8.0ha	12.0ha
			（花き）	0.4ha	0.6ha
			（果樹）	0.4ha	0.6ha
			（計）	8.8ha	13.2ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり